

高知県ポリシーブック「活動事業」

2016（検討案）



JA YOUTH

平成 27 年 12 月

高知県農協青壮年連盟

目次

〇県としての主な活動

- | | | |
|------|------|-------|
| I. | 農政活動 | …P. 1 |
| II. | 経営安定 | …P. 2 |
| III. | 組織親睦 | …P. 3 |

I 農政活動

現 状

TPP交渉等の農政課題に対して、県連役員による県選出国會議員への要請、消費者等に問題を訴えかけるための街宣活動、県内青壮年部の盟友に向けた研修会、県連委員に向けた学習会（農政部会）などを実施している。

課 題

TPP交渉については、関税撤廃による国内の農林水産業への影響がどれほどのものであるか分かりづらかったこともあり、一部の組合員やJA職員は、交渉の反対や、重要5品目を守るという事に対して、本気で取り組むという姿勢が感じられず、他人事のようになっていた。交渉の大筋合意を受けて、情報が出始めてからは、多少の関心を持ち始めているが、まだ十分な認識はされていない状況にある。

解決策

TPP交渉の大筋合意を受け、出され始めた情報を正しく理解し、今後の高知県の農業や若手農業者の営農活動に、どのような環境変化が起こってゆくのかを知ることが重要となる。

今後も引き続き、街宣活動や研修会等の活動を通じて、農業者として「守るべきものは守る」ということをJAと一緒に、政府や消費者等に対して、今後のTPPに向けた国内対策の充実について訴えてゆく。

Ⅱ 経営安定

現 状

県内青壮年部の盟友を対象に、平成 27 年度には以下のような内容で学習会や研修会を実施している。

<学習会>

県内で果樹の生産・加工を行い、インターネットを通じて販売を行っている生産者に講演をしていただいた。講演を通じて、毎年度盟友が発表している「青年の主張」に近い形で、先進的に取り組まれている販売戦略などの話を、参加した盟友に聞いてもらうことができた。

<研修会>

「高知野菜アドバイザー」を務めるシニア野菜ソムリエを講師に招き、実践的な研修会を実施。講師は県が実施する商談会で契約に至るまでを指導していることから、商談会等において盟友自身が生産した農産物をどのように PR をするかというテーマでの参加型研修を実施した。

課 題

農産物についての情報発信や販売単価を上げるということについては、生産者である盟友は JA 等に任せきりであり、技術や単収の向上等に比べ関心が薄い状況にある。学習会や研修会等の場で生産者自らが考え、実践してゆくということについても関心が薄い状況にある。

解決策

JA や市場にただ卸すのみでは、経営安定を担保することは非常に難しく、今日では消費者が安心・安全を求めるなかで、生産者自らが進んで情報発信をしてゆくことが、生產品の差別化や、価格の高位平準化に繋がる。

今後も学習会や研修会を通じて、産地の魅力、生産者自身の経営スタイル、こだわりといった情報を外部に発信する必要性を訴えてゆく。

Ⅲ 組織間の親睦

現 状

県連では、県内青壮年部の盟友に参加を呼びかけ、毎年組織親睦スポーツ大会（スカッシュバレー）および組織親睦駅伝大会を開催している。

課 題

年々、盟友の参加が減ってきており、ややマンネリ化している。また、大会の準備の多くが事務局にすべて任せきりとなっている。

解決策

農業が厳しい状況におかれるなか、盟友どうしで交流を深め、互いに励まし合いながら営農活動を行っていくことは重要である。今後も引き続き、他の青壮年部・同じ青壮年部内の盟友・JA事務局も含めた交流の機会を設けてゆく。

盟友の減少やマンネリ化対策として、県連委員も積極的に大会の企画に参画し、自身の所属する青壮年部の盟友にも交流の機会を促してゆく。